

「第二次世界大戦と人類への惨禍」

令和2年6月8, 9日

本単元で育成する資質・能力

知識

他者理解

振り返る力

単元について

本単元は中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（以下、「29年解説」とする。）〔歴史的分野〕内容 中項目「(1)近代の日本と世界」のうち、世界恐慌による経済の世界的な混乱と社会不安の広がりによって、日本の政治や外交にどのような動きがあったかについて、世界の動きとの関連に着目して取り扱う。

世界恐慌によって各国の対策の違いが対立を生みだした。日本でも経済的な混乱が生じ政党政治が行き詰まって社会不安が増大した。その中で、軍部が台頭し、大陸での勢力拡大や中国との戦争の長期化、国際連盟の脱退といった外交が見られた。また日本の侵略により多くの国々、特にアジア諸国に与えた損害を取り上げるなど「世界の動きと我が国との関連に着目して取り扱う」（「29年解説」）ことが重要である。また、戦時下の国民生活については身近な地域の事例を取り上げ、多くの国民が大きな戦禍を被ったことを理解させ平和な生活の大切さに気付くことができるようにする。

つまり、国際協調と国際平和の実現に努める重要性に気付かせ、その発展に寄与する態度を育成することが本単元での主なねらいである

生徒の実態

本校では昨年度から研究主題を「主体的に学び、確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～対話的な学習場面の充実を通して～」と設定して授業研究を行っている。昨年度の学習・生活アンケート調査結果では、授業の中で友達と話し合ったり自分の考えを発言したりするなどして「自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と実感している生徒は約80%で、対話的な学習場面の効果が見られた。一方で、教師の問いに反応しない生徒も多く、教師の一方的な説明になりがちな実態もある。

今年1月に実施された熊野町標準学力調査において、本学年は基礎問題の正答率が全国平均を7.7%下回った。正答率30%未満の生徒の割合が18.1%と高く、基礎的な知識の習得に課題が見られる。

単元の指導

「29年解説」では「単元など内容や時間のまとまりを見通した『問い』を設定し、『社会的な見方・考え方』を働かせることで、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習」の充実を求めている。

そこで本単元の指導に当たっては、生徒の前単元での既有知識と関連付け、「なぜ第一次世界大戦後に世界や日本で民主化や国際協調の動きが進んだにも関わらず、わずか20年で二度目の世界大戦が起こったのか。大戦を止めるポイントはどこだったのか。」を、単元を貫く問いとして設定する。

そして、生徒同士で考えたことを比較し、選択・判断させて、より深い考察につなげていくために、考えたことをグループ内や他のグループに説明するという対話的な学習場面を設定して授業を構成する。それによって、自分たちにはなかった他者の視点や立場からの多面的・多角的な考察に気付かせ、国際協調や国際平和に必要なことを考えさせたい。

単元目標

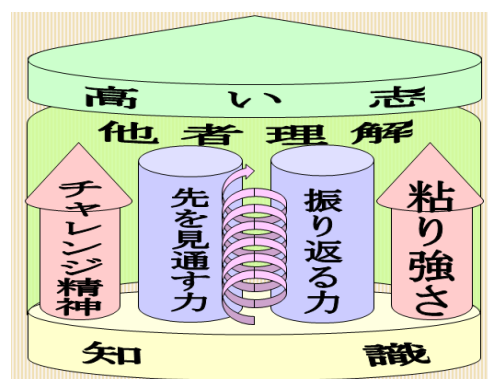
- 世界恐慌での各国の対策や、その後の日本の政治や、アジア諸国・欧米に対する外交の動きについて理解し、必要な知識を身に付けている。また、資料から当時の社会の様子を捉えるとともに、戦時下の国民生活や人々への影響についてまとめている。【社会的事象についての知識・技能】
- 世界恐慌後の世界の対策や、なぜ二度目の世界大戦が起こったのかについて、世界的な視野で多面的・多角的に考察しようとしている。【思考力・判断力・表現力】
- 世界恐慌に伴う経済の世界的混乱や戦時下の国民生活について、現在と比較したり、身近な地域の事例から捉えたりすることで、国際協調と国際平和の実現のために必要なことについて、自分の意見を伝えようとしている。【学びに向かう力・人間性】

単元の評価規準

ア 社会的事象についての知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 学びに向かう力・人間性
① 世界恐慌に対する各国の対策について理解し、その知識を身に付けている。 ② ドイツや日本にどのような経済の混乱が生じたか資料から読みとり、まとめている。 ③ 日本の政治、外交の動きについて地図や統計資料から読み取るとともに、その知識を身に付けている。 ④ 第二次世界大戦に至ったヨーロッパを中心とした世界の動きについて理解し、その知識を身に付けている。 ⑤ 戦時下の国民の生活について写真や絵から読み取り、まとめている。	① 世界恐慌に対する各国の対策がドイツや日本の政治や外交に与えた影響を考察している。 ② 日本が大陸への勢力を拡張しようとした理由について考察している。 ③ 二度目の世界大戦が起こった理由は何だったのか、既習事項を関連付けて考察し、まとめている。	① これまでの学習を振り返り、二度の世界大戦が起こった理由について予想しようとしている。 ② 戦時下の国民生活について身近な地域の事例から捉えようとしている。 ③ 二度目の世界大戦が起こった理由や、国際協調や国際平和の実現に必要なことについて自分の意見を伝えようとしている。

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

本校が身につけさせたい7つの力



〈高い志〉

〈知識〉

- 第二次世界大戦にいたるまでの世界、日本の政治や外交の動きを理解できる。

〈振り返る力〉

- これまでの学習内容を振り返り、なぜ二度目の対戦が起こったのかまとめられる。

〈先を見通す力〉

〈チャレンジ精神〉

〈粘り強さ〉

〈他者理解〉

- 各国の政策について他国の立場から考察できる。

指導と評価の計画

(全 9 時間)

次	学習内容 (時数)	評 価				
		知	考	学	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
1	課題の設定 ○ 第一次世界大戦終結から第二次世界大戦開始までの期間を確認し、単元を貫く問いを設定する。 なぜ二度目の世界大戦が起こったのか。 大戦を止めるポイントはどこだったのかを考えよう。 (1 / 9 時間)	◎			ウ① (付箋)	
2	情報の収集 ○ 世界恐慌での各国の対策を知り、その後の影響を考える。 - 世界恐慌が起こった当時の社会の状況について理解する。 - 各国の状況を踏まえて、どのような対策をとるか、自分たちの考えをまとめる。 - 実際に各国がとった対策について理解する。 [本時] (2 / 9 時間)				イ① (ワークシート) ア① (ノート・小テスト)	他者理解 (観察・ワークシート) 知識 (ノート・小テスト)
	○ 世界恐慌後、ドイツではどのような対策が行われたか、資料から読み取る。 - 資料からヒトラーを国民が支持していたことを捉える。 - なぜ国民がヒトラーを支持したのか、ヴェルサイユ条約を読み取って考察する。 (3 / 9 時間)	◎	○		イ① (ワークシート) ア② (ワークシート)	
	○ 世界恐慌が日本の政治や外交に与えた動きについて理解する。 - 世界恐慌によって、農村の生活がどうなったか、資料から読み取り、なぜ満州が日本の生命線と呼ばれたか地図から捉える。 - 満州事変から国際連盟脱退までの流れを理解する。 (4 / 9 時間)	○			ア③ (ノート・小テスト, ワークシート)	知識 (ノート・小テスト)
	○ 日本の中国大陸進出の動きについて理解する。 - 五・一五事件や二・二六事件の様子を理解する。 - 日中戦争が起こった経緯について理解し、国民生活への影響を資料から捉える。 (5 / 9 時間)	○			ア③ (ノート・小テスト, ワークシート)	知識 (ノート・小テスト)

	○ 第二次世界大戦が起こった当時の世界情勢について理解する。 ・ ドイツの侵略の様子を理解する。 ・ 戦時下のユダヤ人の人々の生活の様子を捉える。 (6 / 9 時間)	○			ア④ (ノート・小テスト, ワークシート)	知識 (ノート・小テスト)
	○ 日本が太平洋戦争に突入した理由を資料や地図から読み取って考察する。 ・ 日本軍の進路を予想し、なぜ南進を行ったか、地図の情報から考察する。 (7 / 9 時間)	○			イ② (ワークシート)	
	○ 資料から戦時下の生活や、太平洋戦争の流れを捉える。 ・ 映像資料を見ながら、太平洋戦争の流れと身近な地域への影響を確認する。 ・ 国民にどのような影響が出ているか映像から捉える。 (8 / 9 時間)	○		◎	ア① (観察) ウ③ (観察)	
3	整理・分析 ○ これまでの学習内容を整理し、二度目の世界大戦を止めるターニングポイントはどこだったか考察し、ダイヤモンドランキングを作成する。そこをターニングポイントにした理由を整理する。 まとめ・創造・表現 ○ 班で意見交流を行う。 実行 振り返り ○ 個人で国際協調と国際平和のために必要なことについてワークシートにまとめる。 (9 / 9 時間)			◎	○ ウ③ (ワークシート・観察) イ③ (ワークシート)	振り返る力 (ワークシート)

本時の学習（2／9時間）

令和2年6月8，9日

（1）本時の目標

世界恐慌での各国の対策を知り，その後の影響をまとめることができる。

（2）本時の学習展開

学習事項	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断して生徒への手立て （◆）	評価規準 （評価方法）	資質・能力の評価 （評価方法）
1 前回設定した単元を貫く問いを確認する。（5分）			
○ 前回設定した単元を貫く問いを確認する。	◇ 「なのにどうして～」と既存の知識を揺さぶるように問いかける。		
単元を貫く問い：なぜ第一次世界大戦後に世界や日本で民主化や国際協調の動きが進んだにも関わらず，わずか20年で二度目の世界大戦が起こったのか。 大戦を止めるポイントはどこだったのか。			
2 世界恐慌が起こった当時の社会の状況を確認し，本時のめあてを示す。（10分）			
○ 本時のめあてを示す。			
めあて：世界恐慌での各国の対策を知り，その後の影響をまとめることができる。			
○ 班ごとに国（アメリカ・フランス・ドイツ・日本）を割り当て，紙幣や資源をやり取りしてアメリカとヨーロッパの国々の戦後のつながりを確認する。			
○ アメリカの自動車生産の変化を写真から読み取らせる。	◆ 写真を拡大し，ベルトコンベアーに着目させる。		
○ ヨーロッパで戦後復興が進むにつれて，大量生産した物はどうなるか，予想させる。	◇ 一度車を買ったら，何年くらい乗るか尋ね，すぐに買い替えるか尋ねる。		
[予想する生徒の反応] ・昔と違って，車がたくさん作られている。ベルトコンベアーが使われている。 ・働いている人の人数が少ない。機械化されたから？ ・自動車が大量に生産されるようになって，価格が下がった。さらに大量に売れるようになった。 ・ヨーロッパが復興したら，大量に作ってもだんだん売れなくなっていくのではないかな。			
○ アメリカが不景気になると，ヨーロッパやソ連，日本にどのような影響が出るか予想させる。	◇ アメリカは当時，日本の生糸の最大の輸出国であったことを思い出させる。		

3 各国の状況を踏まえて、どのような対策をとるか、自分たちの考えをまとめる。(15 分)			
○ ワークシートを配布する。それぞれの国の状況を確認する。自分たちの国はどのような対策を取るかを黄色の付箋に、他班への要求をピンクの付箋に記入して、台紙に貼り付ける。 ○ 自国でできることと他班への要求を発表係に発表させる。それを聞いたうえで、他班の要求に応じるか、カードで示させ、理由を尋ねる。	◇ 何も対策が取れなかった場合は、その国は－50 億ドルが追加されてしまうことを伝え、主体的に考えさせる。 ◆ もっている資源を使い、難しければ他国へ何か頼んでもよい、とヒントを与える。 ◇ 応じる－青、応じない－黄色で示し、把握しやすくする。		
【対話的な学習場面】 他班からの要求を聞けば、自国の経済にマイナスが生じる状況になりかねないことを数字で示しながら、自国優先にするか、他国との協調を選ぶか、自己内対話によって選択・判断させる。			
〔予想される対応〕 全ての国（班）が－50 億ドルからスタート。 → 対策を記入すればどの国も＋30 億ドルを得て、負債は－20 億ドルになる。 → イベント発生で米、仏は＋10 億ドルになる。 → 独、日の要求に応じれば、独・日 0、米・仏は 20 億ドル渡すので、－10 億ドルになる。 → 応じなければ、米仏は＋10 億ドル、独・日は－20 億ドルのまま			
○ ドイツや日本はアメリカやイギリスの対応を聞いて、どう思ったか、要求が聞き入れられないならどうするかを尋ねる。	◇ そもそもなぜドイツは、要求せざるを得ない状況になったのか、再度尋ね、ドイツは敗戦国だから仕方がないのか、と揺さぶる。		他者理解（観察）
4 実際にとられた対策について知り、各国の立場からどのような影響が出るかをまとめる。(15 分)			
○ 実際に各国が取った対策について、教科書で調べて内容を読み、板書でまとめる。 ○ アメリカやフランスの対策によって、ドイツや日本にはどのような影響が生じると考えられるか、ワークシートにまとめさせる。		イ① (ワークシート)	
【「概ね満足できる」状況（B）と判断する根拠】 世界恐慌に対する各国の対策を挙げ、ドイツや日本にどのような影響が出るか考察している。 (記述の例) お金や資源があるアメリカはニューディール政策で失業者を雇えたし、植民地をもっているフランスはブロック経済で輸出ができたが、植民地がないのに賠償金が残っているドイツや、資源の少ない日本はそれができず、不満が募った。			

【十分満足できる】状況（A）と判断する根拠】 世界恐慌に対する各国の対策がドイツや日本にどのような影響を与え、その後どうなっていくかを含めて考察している。 （記述の例） お金や資源があるアメリカはニューディール政策で失業者を雇えたし、植民地をもっているフランスはブロック経済で輸出ができたが、植民地がないドイツや、資源の少ない日本はそれができなかったため、武力（戦争）でそれらを得ようとする動きが起こっていくのではないかな。			
【配慮を要する】状況（C）と判断される生徒への手立て】 国名を入れ、アメリカは…で、フランスは…を行った、だがドイツは…と比較し記述できるように、文章の流れを示す。			
5 自己点検表を記入させ、次の時間につながる問いを示す。（5分）			
○ 自己点検表を記入させる。 ○ 失業率の比較のグラフを見せ、アメリカとドイツのどちらか予想させる。そして、なぜ、ドイツが第二次世界大戦前に大幅に失業率を下げることが出来たのか、次の時間に考えることを伝え、ヒトラーについて知っていることをまとめるよう指示する。			
次の時間につながる問い：ヒトラーについて何か知っているか、どんなイメージがあるか。			

（3）板書計画

めあて：世界恐慌での各国の対策を知り、その後の影響をまとめられる。

【ヨーロッパの復興➡アメリカの物が売れ残る。・株価の暴落】

1929年：世界恐慌…アメリカの不景気が世界中に拡大

社会主義のソ連は影響なし。

アメリカ（ルーズベルト大統領）
 ＜ニューディール政策＞
 ・公共事業で失業者を雇う。
 ・農作物の買い付け

＜労働者の収入増＞

イギリス・フランスなど
 ＜ブロック経済＞
 ・自国⇔植民地で貿易
 他国は高い関税で排除

ドイツ・日本など
 ・他国との貿易が激減
 ・植民地、資源が少ない。
 ＜新たな領土の獲得へ＞